

平成30年度第2回鞍手町総合教育会議
議事録

- ・日 時 平成30年11月12日 午前9時45分
- ・場 所 役場 応接室
- ・出席者 町長 岡崎邦博
教育長 栗田ゆかり
教育委員 藤井睦彦
教育委員 野中眞知
教育委員 木月芙美代
教育委員 堀角泰正

(事務局)

- 総務課長 三戸公則、庶務管財係長 神谷徹
- 教育課長 古後憲浩、学校教育係長 森永健

開 会 (9 : 45)

○総務課長 (三戸公則)

おはようございます。定刻より少し早いですけれども、皆様お揃いですので、ただ今より「平成30年度第2回鞍手町総合教育会議」を開催させていただきます。本日進行を務めさせていただきます、総務課長の三戸と申します。どうぞよろしく願いいたします。それでは、早速次第に沿って本日の会議を進めていきたいと思っております。約一時間程度を予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。では、初めに岡崎町長よりご挨拶申し上げます。

○町長 (岡崎邦博)

こんにちは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。私が町長を務めることになり約2か月が経ちました。選挙の際に教育に対して非常に重要であるということを示したように「町づくりは人づくり、人づくりは教育」であると考えています。その中でも、本日議題となっている今後の町づくりの方向性について、総合教育会議の中で、私と教育委員の皆様と一緒に協議をしながら課題や目標について議論をし、同じ方向を向いて教育行政を進めていけたらと思います。色々なご意見を聞か

せていただきながら会議を進めていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。続きまして栗田教育長さんにご挨拶をいただきたく思ひます。よろしくお願ひします。

○教育長（栗田ゆかり）

皆さんこんにちは。本年度2回目の会議ですが、岡崎町長とは初めて会議をご一緒します。町の教育ということについてご意見とお話ししていただいたことを踏まえてこれからの教育行政を進めていきたいと思っておりますし、今の鞍手町の教育についても少しお話をさせていただく機会でもあります。どうぞよろしくお願ひいたします。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。それでは議題「鞍手町における今後の教育行政について」に入りたいと思ひますが、その前に今年度の児童・生徒の状況並びに今年度の見込みについて古後教育課長に状況の説明をお願ひしたいと思ひます。

○教育課長（古後憲浩）

それでは2点目の資料に沿って説明をさせていただきます。概数と主な点のみを説明いたします。平成30年度小学生児童の合計が740名、劔南小学校が254名（特別支援含み263名）と一番多い数です。また、室木小学校の全校生徒が38名（特別支援含み40名）となっています。鞍手中学校の生徒数は383名で合計が1,123名となっています。次年度の平成31年度の見込みについて資料を説明いたします。小学校の全体人数が740名と、前年度と同等です。鞍手中学校については374名となっており、合計すると1,114名です。来年度は約9名少なくなっています。平成30年、31年度の児童数については、以上です。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。さきほど児童数の現状について議題の1にあります、鞍手町における今後の教育行政について岡崎町長よりご意見をお願ひいたします。

○町長（岡崎邦博）

①～⑤まで項目がありますが、それぞれ簡単に説明させていただきますと、①とし

ては小学校の適正化と教育環境の整備ということで、これについては、小学校が今現在6校あるということですが、この6校が適正な規模かどうかを議論していただくということになります。生徒数、児童数が挙がっていますが、昨今の出生数を見ますと、ひと月に6～7名程度しか生まれていません。それはとりも直さず、あらかたですが、これが6年後の新一年生の数ということになります。ということは、12年後にはこれが6年生の数、その時には新一年生はもっと少なくなるということもありえます。そんな中で鞍手町が現在の小学校6校を維持できるかどうか。それは子どもたちの教育環境としてどうなのかという思いがあります。少数精鋭（少ない児童数）のなかで勉強をしていくということは一時あるのかなとは思いますが。室木小学校では複式学級になっていますし、今後このまま進めば他の小学校でも複式学級になるということが想定されるのではないかと思います。そうした中で協調性・競争性をはぐくむという点について、少数だけでいいのかという思いもあります。現在の世の中の状況を考えていけば、ある程度の規模の中で生活をし、育っていくという環境も教育環境のひとつとして必要ではないのかという思いがあります。そういった中で小学校の規模をどう考えるのかということでこの議題を挙げさせていただいています。

2番の外部コーチの招聘・クラブ活動・小学校高学年…と議題にありますが鞍手町という町自体がスポーツが盛んな街でもありますし、優秀な成績を収めている子どももいます。バレー・野球・サッカーにしてもそうですが、小学校の時から各クラブ活動が盛んでもあり、そういったことが中学校においていい成績を収めるということに繋がることもあると思います。ひとつ例を挙げるとすれば、小学校でバレーのいい成績を収めた子が、中学校に入ると燃え尽き症候群になりバレーをしなくなってしまうたり、中学から高校に行く際に同じ現象が起きてしまったり、そういった事例を聞いたことがあります。その際にひとつネックになるのが指導者の問題です。私自身は小学校高学年～中学3年まで同じ指導者で指導をしていくことができればいいのかなと思います。特に昨今の中学校のクラブ活動において教員の過剰な労働時間が負担になっており、一番の原因がクラブ活動であるという事例も報道・新聞等で挙がっています。そこで、外部コーチについてどう考えるかというテーマも挙がっていますので中学校の先生方の負担を軽くするとともに外部コーチ制を取り入れることも考え併せ、テーマとして挙げています。

3番目の英語教育の前倒しについては、平成32年度より年齢を前倒しして下げている学校もあると聞きますし、具台的にどの学校かということは承知はしていませんが、学年を下げて取り組むというような話もあります。「前倒し」というのは、できれば小学一年生から英語に馴染めるような環境を整えていかなければならないのかなということでこの議題を挙げています。

4番目の市民楽団・吹奏楽団への支援ということで、現在鞍手町に市民楽団・吹奏楽団とはっきりしているものは現在ありません。例えば宮若市では、合併当時にミュージカル等をテーマにしたグループがあったと聞いていますし、それが一つのコミュニケーションなりコミュニティを作る場になっているのではないかというふうに思います。それは地域に限ったものではなく、町全体から「参加したい」と思った人々が集まり、世代を超えたコミュニティができるひとつの場にならないかなという思いがあります。吹奏楽団については、一時期の鞍手北中においては好成績を収めていた時期があります。当時の生徒さんたちがいまは30代の後半～半ば程度になってきています。ある程度の年齢にもなっていますし、その中のどれくらいの方たちが引き続き鞍手町に住んでいるかは、はっきりとは承知はしていませんが、そういった過去に好成績を収めた方たちがまだ居たとすると、集っていただき、このような吹奏楽部の市民版が出来ないかなという思いでこの議題を挙げています。

最後になりますが、生涯にわたり文化・芸術に親しめる音響施設ということで、4番にしてもそうですが、活動の拠点となる文化・教育の…教育といっても生涯学習にはなると思いますが…そのような拠点になる場が必要なのではないか。特に、市民ホールというものが欲しいというご意見を町民の方からうかがうことがあります。そういった意味ですぐに建設に取り掛かることが出来るかという、これもまた難しい問題でもありますので、ここでは必要性の検討をしようということで、まずは必要かそうでないかから入り、そのうえでどういうものが必要なのかという検討の場として必要なのではないかとということで挙げさせていただきました。

いずれにしても私自身、教育・伝統文化・芸術というような大きなタイトルで挙げていますが、鞍手町に住んでいるとほっこりするとか、心が温まるというか…鞍手町に住んでいる人は殆どそういった方だと私自身思っています、町としてそれぞれのものとして形作っていくために必要なものではないかということで挙げていますし、とりも直さずやはり大括りとすればそういうふうに考えています。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。ただ今町長より教育方針について述べていただきました。このことについて、皆様からのご意見をうかがいたいと思います。その前に、先ほどの児童数の状況について補足資料が一部ありましたので、ご覧いただければと思います。

○教育課長（古後憲浩）

これについて若干説明をさせていただきますと、先ほど町長のお話にありましたように、今後児童数が減っていくというのを、来年以降のあくまでも推計ということで

提示させていただいておりますが、昨年が740名以降、ずっと少しずつ減っていくということで、平成35年には674名になるというデータでございます。約70名弱がこの5・6年で少なくなるのではないかとということです。一番児童数が少ない室木小学校ですが、平成35年には28名というデータが出ております。以上を平成35年までの推移の基礎資料として提示させていただきたいと思っております。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございます。

○藤井委員

小学校の児童数の推移では、資料を見ると室木小学校と古月小学校が減少している状況で、ほかのところは局欄には変わらないという状況です。ここには出ていないのですが、町長の考え方では、町づくりによって子どもたちの数が増えたり減ったりしてくるということですよ。そこで、どういく形の町づくりを重点的にされるかという点が分かれば、現在6つある小学校を一つにするのか何個にするのか、というのを考えていけるのではないかと思います。難しいとは思いますが…。

○町長（岡崎邦博）

町づくりの観点ということになりますと、鞍手町には現在人口ビジョンというものがあります。そのなかで国立社会問題研究所が出しているものと、鞍手町等が出している人口ビジョンとは、実は大きく乖離している部分があります。その一番の大きな部分というのが、仮定地Fだったと思いますが、毎年度若い夫婦の方たちが60組鞍手町に入ってくるようになっていたと思います。そして各小学校区域に10組ずつ、若い夫婦が移住して来、子どもを産んでもらうというふうになっています。2035年だったと思いますが、その時には合計特殊出生率が2.01（2.1だったか？）という、国が定めている、2人以上の子どもを持ってほしいということで、2035年にはそうなるという想定で人口ビジョンが出来ています。ただ、現状を考えてみた場合に…その前にちょっと言いますと、その人口ビジョンで行きますと、ある一定から児童数の数は減らなくなります。むしろ、現在よりも増えるという人口ビジョンになっています。ですから、それを想定してそのまま学校の規模の適正化を考えていくと、そんなに学校は減らせないんです（毎年20組の夫婦が入ってくると想定すると）。最初に言いました、国立社会問題研究所が出している人口推計で行けば、鞍手町の子どもさんたちはずっと減っていきます。一番乖離が大きいのが、この14歳以下の子どもの層が、鞍手町が出している人口ビジョンと国が推計しているものと大き

く違っていています。ですから、どこを取るかによって実は、町づくりの観点から言えばこの学校の数をどうするのかということにも結び付いてきます。私自身は、鞍手町の人口ビジョンについては、ずっとこんなことにはならないということによってきています。国の人口推計は色々な統計がありますが、いくつもある統計の中で、統計学上一番狂いが少ないのが人口推計だと言われています。ですから私は、国の人口推計がまず間違いなく鞍手町の14歳以下の子供たちの層が乖離しているというふうに思っています。そうしたことを前提とすれば、小学校の6校というのは多いのではないかと思います。同時に、今回エアコンを全小学校6校に設置することになりましたけども、こういった教育環境の整備・充実というところも、今後6校をそのまま整備していくということになれば、相当な町の負担になると思われます。それも、今後人口が減っていく中で鞍手町としては、その6校を抱えたまま行くというのは難しいと考えています。

○藤井委員

我々としては本当のところを言うと、6校をずっと確保していかなければという思いは毛頭ないのですが、やはり今一番町長も懸念されているのは室木なんかも生徒数が少なく…これは実際先生方も大変なんですよね。子どもたちの学力をどうしようかということについて一生懸命頑張ってもらって、学力的にはそう悪くないのですが、それをどれくらいまで続けていくのかというのはなかなか難しい面もあるんですけどね。正直に言うと鞍手町の子どもの数が増える見込みはないでしょうが、ひとつ、町づくりの問題が出てくると、鞍手町の教育力が高いということをはほかの人が知り、鞍手町に住みたいと思う人が入ってくれば別なんでしょうが、日本の全体的な人口の移動のバランスを見てみると、鞍手町はたぶん難しいかなという気がしますし。福岡は割とハイテクだなという状況ですけども、そういうものが目に見えれば継続していきたいという気がします。私がなぜこういうことを言うかということ、現在2つあった中学校をひとつにしていますよね。あれはちょうど4年間かかったんですけど。それも最初はいろいろと意見が出ましたし、やかましいことも言われたりしたんですけど、結果的に思い切って実践すれば結果は悪い話はないという（悪い意見は出てこない）。小学校もこれを実践するとなると大変なエネルギーを要すると思います。エネルギーを要するこの問題にどう対応していくのか。これは1年、2年では出来ないことです。数年先を見込んだやり方でないとやっていけないと思います。これらを、先を見据えてやっていきたいと言うのであれば、私からのお願いですが早くからそういうポストを作っていただいて検討し、地域の皆様のいろいろな意見を聞いていかないと、いきなりやるといろいろな問題が出てきますからね。そういう点を考えていただ

いた上での整備・充実を図っていただいたほうがいいのではないかと思います、町長の考え方を聞いたうえで挙げさせていただきました。

○町長（岡崎邦博）

私自身は、今藤井教育委員が言われたように、ここでは適正化（か？）ということですが、ある意味小学校の統廃合を進めるという意味になるわけですね。それには本当にエネルギーが要りますし、やはりそれぞれの小学校の地域性だとか、それぞれに対する想い・愛着というものは、中学校に比べれば格段に小学校に対する想いのほうが強いです。そういった想いを分かったうえで統合を進めていくということになれば、本当に子どもたちを通わせたいような理想的な小学校を作るということで、地域の人たちの思いを払しょくするような小学校にしていくことじゃないかな、というふうに思います。それにはやはり今の保護者の方はもちろん、そこを卒業したお爺ちゃん・お婆ちゃんから、これから小学校に通わせようという若い人たちも含め、どういう小学校に子どもたちを通わせたいのか。それは、ひとつは学校という施設の面と、今度はそごでどのような教育が行われるのかの中身、そういったものを含めて理解をしてもらえるような形で進めていかなければならないと思っています。藤井教育委員が言われたように、ずっと皆さんと話をしながら地域の人と話をし、双方が納得した上で進めていかないと、なかなかこの統合の問題は難しいと思います。

○藤井委員

今、教育長がいらっしゃいますが、鞍手町は数十年前～数年前から見ると教員の頑張りもあり割と学力的にはだいぶ良くなってきています。こういう状況の中にあつて、統廃合をするのかという意見も出てくる可能性はあるのですが、ある程度町長としてのビジョンがしっかりと定まっていれば10年、20年先を見据えた時にこれだけはやっておかなければならないと鞍手町の発展は無いよ、という話になってくると思います。そういった点をどうアピールしていくかは中々難しいと思います。確かに教育委員の中でもたまに話は出るのですが、やはり子供の数が減少している学校はかわいそうですし、教員も大変だなという思いは皆持っています。そういうものもありますので、今後町長のビジョンに対してどうやっていくかというのは、我々も考えていかなければならないと思っています。

○町長（岡崎邦博）

教育というのは、人が移住してこようと思う時の条件の中にはいくつかあると思います。その中でも教育というのは、非常にウエイトが高いと思っています。その教

育環境なり、教育施設・教育環境も含めてなのですがそれが整っているかどうかというのが鞍手町に住もうと考えている人たちのひとつのきっかけになると思います。それに加えて交通の便や買い物のどうだとかいろんな部分があると思いますけれども、子どもを育てていくうえで鞍手町が適しているかどうかというのは重要な要素だと思っていますので、教育環境を整えるということは、町の行政としても重点を置いて進めるべきだというふうに思っています。そういった想いがこの中には詰まっているわけなんですけれども。いろいろとご意見をお聞かせいただければと思います。

○藤井委員

これをどうするかというのは、ポチポチ時期も近づいていることですし色々考えていかなければいけません。

○町長（岡崎邦博）

今の小学校の校舎を見ても、なかなか昔の感じがあり、耐震化にはなっているのでしょうが、外見上もちょっと…

○藤井委員

レイアウト的には、現代の状況に沿った形にはなっていないですね。

○町長（岡崎邦博）

外見も機能も時代遅れという悪いですが…

○堀角委員

人にやさしくないですね。

○藤井委員

確かにお金がかかることではありますよね。

○野中委員

ちょっといいですか？規模の適正化という点については、私は非常に賛成です。どの程度の規模かというのはこれから協議していかなければならないのですが…。中学校の広い敷地がありますよね。あの中で小中一貫校を作るというお考えはないのですか？敷地が勿体ないと思います。

○町長（岡崎邦博）

実は、中学校の統合の時にずっとそういうことを考えていまして、中学校の敷地ではなく鞍手北中の敷地が適正ではないかと思いつつそういう発言をしていました。小中一貫校のメリットも多いと思います。ただ、あの場所に小学校をひとつ一貫校として作ると通学の面で、670名の児童をほぼバスで通わせることになります（例えばそれが一貫校になったとすると）。そうすると、費用負担が。今でも中学校で2,000万円以上の費用が通学のためのバスの経費としてかかっています。その範囲を小学生までに広げるとなるとかなりの費用負担になり、教育環境としてはいいかもしれないが財政上の負担がかなり大きくなります。私の中では一貫校というよりもむしろ小中連携という形で、別の場所にはあっても連携していくということが出来ないかどうかという思いはあります。いくつかの学校があつてそれぞれの学校で沢山の費用がかかるのと、ある程度の学校をまとめてその分のスクールバス等の費用。学校を維持する費用・スクールバスの費用はどんな形をとっても両方発生します。そうしたときに実際どちらの費用が大きくなるのか？私たちは分かりませんから、学校をたくさん抱えているほうがむしろ費用がかかる気もしないこともないです。

6校を何校にするかということにもなってきますが、小学校を1校にするのか2校にするのか3校にするのか。その辺はまたこれからの議論になるとは思いますが、それも。

○野中委員

教育というのは、小学校だけではなく、中学校に行くとは今度はお兄さんお姉さんの姿を見ますよね。それが結構子どもたちにとっては環境教育と言って、目に見えないものです。校風を作っていくうえでもとても素晴らしい要素になっていくのではないかなと。上級生が低学年のお世話をすることによって、縦とのつながり・校風を作っていく。これが上手くいっている学校というのは結構落ち着いている子が多く、いいものができていっている要素もありますし、中学生は低学年（小学生）を指導することによって自尊感情が育つということもあると思うんですよ。「お兄ちゃん」と呼ばれることで、その子的にも気持ちは非常に豊かな心が育つと思うんです。だから、メリットも結構あります。ただ、お金の部分は私も全然わかりませんので、たくさん学校があつてお金をかけるのと1つか2つにしてスクールバスや安全面にお金をかけるのと…。

○町長（岡崎邦博）

おそらく、徒歩で通学する学生というのはごくごく少数になると思うんですよ。ほぼ、スクールバスを回すということになります。そうすると、10代でも足りないのではないかという規模なんですよね。ここに六百数十人居ますが。あとは、距離的なものとか、どういうふうにして子どもを登下校させていくか、また下校させるかというような問題もあります。距離はかなり遠いので室木の奥から永谷の奥までずっとあるわけですが。そういうものが現実的であるかというのはこれから考えないといけないと思います。通学時間というのも、学校には8時10分～15分までに来ないといけないでしょうから、そこからぐるっと回って7時半かそれくらいには家を出るとか、学年によっては同じ時間に同じようにずっと帰れないため、下校の際に何往復するのかとか、色々具体的に課題も出てくるのではないかと思います。学校の数をいくつかにするのと、1校にした時の費用がどうなるかというのは、試算することはできるかもしれませんが、現実問題として登下校の問題がどうなるかというのは大きな課題になるのではないかと思います。

○野中委員

もう一つお願いしたいのは、統廃合をすることになった時に、現在ある学校を活用して統廃合というのはぜひやめていただきたいと思います。新しい校舎に。考え方も随分変わってきていますので、校舎はもう絶対建て替えてもらって、それが若い・新しい人たちに対する、こんなに教育にお金をかけていますよ、という一つのアピールになると思いますし、鞍手町に来ていただくためのアピール度も高いと思います。私は出来るだけ斬新な校舎を建てていただきたいと思います（国から予算を借りる等して）。お願いしたいと思います。

○町長（岡崎邦博）

それは私の中でもありますし、それこそ統廃合の中でこの学校に集約するとなると、その場所に吸収されたというようなイメージがあります。それと、一番最初に言いましたように、理想的な学校を作りたいというのは、施設・校舎の面も含めてですが、そういう想いもありますので、野中委員のそのままを受け取って、実現したいと思います。

○野中委員

ぜひお願いしたいと思います。普通、学校の校舎改築は普通に改築があり、大規模改装というのも何十年に一度かあります。先ほどお尋ねすると、大規模改装は無いと言われていたので、そういうのが無いのであれば校舎が徹底的に綺麗になっていくと

いうケースも少ないので、外側を見ただけでもずずら汚れているというイメージがあります。なので、是非このような機会を通して校舎を綺麗にするのも一つの手だと思うので、保護者の方にアピールするときも、統廃合するときのひとつの方向性としても、子どもたちがこうしたほうが喜ぶし、やる気も出てきますよ、というところでは是非お願いしたいと思います。

それからもう一点いいですか？ 保幼が出てないんですね。保育所と幼稚。これは、働くお母さんにとってはとても重要なポイントではないかと思います。小さい子どもを預けて働いておられる方々がたくさんいますので、公立の幼稚園と私立の幼稚園がありますよね、その辺の兼ね合いが私は分かりませんが。あとなんですかね？最近の…認定こども園ですかね、ああいうのをこれから…あれは保育所入りやすいんですかね？その辺は分かりませんが。そういうのを作っていかれるお気持ちがあるのかなと。

○町長（岡崎邦博）

実はここには挙げていないのですが、一時期、認定こども園というものを設置するときにこれは良いのではないかと思ったことがあるんですよ。保育園の機能を持ちながら幼稚園のように幼児教育をする人をそこに配置するということがあるようでしたので、それ自体には私は賛成なんですけれども、鞍手町にそのような考えが当時ありませんでした。そして今回、また保育所を3園統合するような話も出ています。公立の保育所は1園になるんですね。で、私立の保育所が2園になります。それで、今までの待機児童を解消していこうという形で今のところ幼稚園・保育園については取り組んでいますし、幼稚園については現在くらで幼稚園が1園ありますので、今のところはそういう体制でいくのかなと考えています。ただ、先ほど言及した認定こども園について、これが鞍手町にとっては有効なのかどうかということは、今のところは私の中では考えがないので、その辺は分からないんですけどね。

○野中委員

保育所は統合されるというわけですね。

○町長（岡崎邦博）

そうですね、3園が1園に。どうなんですか？認定こども園は。

○野中委員

ただ、お母さん方が考えられているのは、保育所は勉強を教えない。幼稚園に行っ

たら勉強を教えてくれる。だからできれば幼稚園のほうに入りたいという想いは、教育熱心な方は持っている方は居るみたいですが。そういう意味では両方の機能を備えているのでお預かりするのと、幼児教育・学習もしていくというと、アピール度はそちらのほうが高い気がします、私も実際の経験がないからそれは幼稚園や保育園の先生に聞かれたほうがいいかなと思います。

○木月委員

保育園の中身も変わってきましたからね。教えるということをしめよう。

○町長（岡崎邦博）

ただあの...幼稚園にしてもですね。延長保育みたいな形で、おそくまでとか、保育所の門をそういったときに学習というところを持たせようみたいな形で、両方垣根が下がってきているというふうに思うんです。なので、私の中では保育所の中でもそういった、教育機能を持たせるような保育の仕方を考えてほしいという想いがあります。

○野中委員

国の補助はどちらのほうが出やすいんですか？

○町長（岡崎邦博）

そのへん検討は全くしてないので...

○木月委員

もし延長保育とかになったら、働く職員さんのほうが時間の関係とかで勤務手当が違ってきてましたもんね。

○町長（岡崎邦博）

資格そのものから違ってきますもんね。幼児教育の免許を持つてると、保育士の免許を持つてるとになりますから、本来は両方持つている人が一番いいでしょうけど。

○野中委員

すみません、できるところまでは検討していただいて...すみません、仕事が増えてしまいましたね。

○町長（岡崎邦博）

それこそ、外部コーチにしても、英語教育の前倒しというのはどうなのでしょう
か。必要性があるのかどうかも含めて。

○堀角委員

それこそ今も幼児の時から英語教育が始まっていますからね。幼稚園なんかだと。

○木月委員

今お二人（ALT）が来ているじゃないですか。立場上いらっしゃるけど。どの程
度入り込んでいらっしゃるかですよ。

○学校教育係長（森永健一）

月曜以外は全部学校に出てるんで、実数的にはだいぶ出てますね。何百時間はふた
りとも入っています。

○木月委員

影響はかなりありますかね。外国の方がいるのですごく英語が喋れるようになる！
みたいな期待はありますけどね。

○学校教育係長（森永健一）

やっぱり、学習の中でやっているんで、こども達もちよこちょこは使っているんで
すけど、小学校ではまだ教科ではないのでただ英語に触れる程度なのかなと。しっか
り英会話ができるとか、そういった状況ではない。

○木月委員

それを本格的にしたいということですよ？

○教育長（栗田ゆかり）

3年生以上が義務教育です。そして1、2年生だけがしてないんです。1、2年生
については授業日数になかに少し余裕がありますから担任の先生が入れて、ALTの
方と一緒に英語を楽しむとか親しむところでされています。学習の指導要綱には
法ってないけれども3年生以降の時のための地ならし的な意味合いでされていると
ころもあります。

○町長（岡崎邦博）

あとは、教科にもなる32年以降についてなんですが、コマ数がどうなっているのか、何個になるのかは全然わからないんですけども。そこに厚く充てるとかそういうことをできたりしませんか？

○教育長（栗田ゆかり）

70時間ですかね？総合の中から取るか…じゃあ2時間ですね。週に2時間は取れるということですから。それこそ、図工とか音楽よりも多くなると思います。

○町長（岡崎邦博）

新聞なんかを見たりしていると、今は1時間授業が45分ですね。それを40分にして午前中を5時間授業にするとか。そういうものが新聞にはちょっと載っていましたけど。そういうのは市町村の教育委員会とかで決められたりとか…

○教育長（栗田ゆかり）

基本は、小学校については1単位時間が45分で中学校が50分というふうになっているので、基本はそういう形で進めていくということです。

○町長（岡崎邦博）

それは、教育委員会の中で変えられないんですか？教育委員会で。

○藤井委員

そういう事例は聞いたことがないですね。

○教育長（栗田ゆかり）

あの～、行事などがあるときにですね、時間を持ってくるために40分ずつにして、5分間ずつするというのがあるけれども、基本は45分なので、学校行事によって入れ替えていく…。1単位時間を45分として、年間35週あるということで、考えての学習内容に全部なっているからですね。40分にしたら35単位になっているのが、計算していったら40数単位に変更していかないといけなくなる…。

○町長（岡崎邦博）

そういうのが市町村でできるかというのを調べて…かなりの部分がもう市町村に降

りてきていますよね。

○藤井委員

現在は授業数の中でものをやっけて行っているからですね。それ以外にも前倒しをやるうとした時には、現在導入しているところもありますよね。前倒しを。それは何をしているかと言ったら、土曜日出向で年間に何日を増やして補っていくという形は行っていますね。通常でその時間内に入れていこうとしたらなかなか難しいんですよ。それとあと、先生方がどう考えるのか。鞍手だけそうしたとしたら、よその宮田・小竹・直方が「鞍手だけなぜ時間数を増やしているのか」という色々なものが出てくるからですね。なかなか難しい点がありますが、それでも町長が言われるように英語授業の前倒しというのは東京とかあの近辺ではどんどん実施していますね。何をやっているかという、土曜日出校が増えてきているという状況ですね。鞍手は行事をした時だけに土曜日出校という形があったのだけれども、遠賀も土曜日出校が増えてますね。年間どれくらいあるのかは詳しくは知らないですけども。鞍手町もそういうものを取り入れて実施するかというのもまた教育長も色々話し合いをされないとなかなか難しいとは思いますよ。

○教育長（栗田ゆかり）

先ほどの時間単位の方は、15分間を一つの単位としてモジュール学習というのがあります。それを30分・30分に分けて、ブロックでする学習を実施しているところはあると思っています。子どもの集中力が続かないから30分単位にしてまた一つ休んで30分。その代わり、全体としては実数は変わらないんです。

○町長（岡崎邦博）

そういう組み換えをしてるんですよ。

○教育長（栗田ゆかり）

はい。ドリルの時間をこの時間にとって、あとは考える時間とか、いろんなことに使うという形は何回か見たことがあります。

○町長（岡崎邦博）

それこそ福岡では、うちの孫が行ってるところでは2限・3限が同じように休みなくやっけてるんで、おそらくそんな感じだと思いますね。その次に15分休みが入っているみたいなので。教科をその…ひとつで変えてるんですよ。30分～40分ではあ

りませんが、変えて引き続きやって、ということにもなりますね。それとも一つ、英語教育の中で、ネイティブの方、普通に英語が喋れる方が居たりするじゃないですか。そういう方たちが、教員免許を持っていなくても学校の中に入ってそういう指導なりなんなりというのは出来るんですかね、出来ないんですか？

○藤井委員

私からちょっとお願いしたいことがあるんですけども、今読み聞かせをしている人、あの中に英語が堪能な方が居るんですけど、英語の読み聞かせはできないんですか、と言ったら本人はなかなか進んでしようという形ではありませんでした。そういうことをしようとすると、今の授業数の中ではなかなか難しいんでしょうけど、鞍手町にも英語が話せる教員は居るので私たちがどういうふうに活用するかというと、その人が前向きに考えてくれるのか、学校などの連携をどういう形でしていくのか。ということも考えています。それは色々な考え・方向性を持ってやらないといけないと思いますね。

○町長（岡崎邦博）

教科となった時にすべてをALTの先生に任せるのか小学校の戦線がするのかなというのもあると思うんですよね。一番は発音ですよ。小学校の先生の発音がどうこうというわけではないんですけども、先ほど堀角委員が言われたように幼稚園の時から英語に触れている子どもたちが小学校の先生たちの発音を聞いた時にキャップを感じるのではないかと、そういう意味で、ネイティブで普通にしゃべれるような方たちのほうがむしろ、発音の観点からすればいいのかなと思ったりもしてんですけど。それが可能なのかということは私の知識がなくわからないんですけどね。

○藤井委員

先生の中には一緒になって喋っている先生もいますけどね。

○教育長（栗田ゆかり）

ボランティアとしてだったら、お願いしてということで出来るのではないかなと。やはり学校側はどちらかということ知らないものだから、そういうのを登録していただけると、いつもALTの方に来ていただけたらとは限らないので、そういう時にお願いするとかですね。そういう形が取れば、失礼な言い方ですけど神座バンク的なものですね、そういった方が登録していただいていると、学校はお願いがしやすいかなというふうに思います。

○町長（岡崎邦博）

英語については、特に小学校の教育の中ではなじみが無いものというのもありますし、国はしきりに英語教育の話もしますしね。それを鞍手町の中でどう落とし込んでいくかというか、どう組み入れていくかということにもなると思うんですけども、そういった発音の問題とかが課題の一つとして挙がっていたりもしますので、対策を考えていく必要があるのではないかと思います。

○藤井委員

いま中学の英語の先生がいらっしゃいまして、時間に余裕があれば小学校に出向いて自分たちも指導をしたいと思われているみたいですね。それは、小学校から上がってくるので中学校との連携が必要なんですよ。そういう点については中学校の英語の先生も考えられているんですね。

○町長（岡崎邦博）

そういう点で、先ほどのような小中連携ということになってくると思うのですが、

○藤井委員

一番手っ取り早いのは、中学校の英語の先生の空いた時間を使って小学校に行ってもらって、英語を教えてもらう。子どもが先生を知ることになるので大きな連携になるでしょう。最初はそういうやり方のほうがいいかもしれませんね。一般的な人というのは尻込みしますからね。

○町長（岡崎邦博）

お願いしてもなかなか…というのはあるかもしれませんね。

○野中委員

地域の中で英語が堪能な方等をT Tの運営の形をお願いする売位は費用的なことも出てくると思うんですよ。そういうものは町としては解決できる形にあるんですか？あの一、やはり担任としてはですね、自分が担任だとしたら、やはり一番大切なのが発音なんですよ。子どもの時のヒアリングする力というのはすごく優れているので、子どもの時にしっかりしていればヒアリングの力が伸びるというのはよく聞きますので、私たちのたどたどしい発音よりも堪能な方や外国の方が発音されたほうが聞く耳は育つし、正確な発音もできるようになるので、お金と機会があれば…一人では

出来ないと思うんですよ、免許がないからですね。担任が居る中で本を読んでいたたりとか質問していただいたりとか。そこで担任が補助するような形でやっていったりとか。いろんな形はあると思うんですけど。そういうふうにしていけば非常に活用という意味と、そういうのが鞍手町の小学校で全部入ってますよ、という形になっていけばアピール度はすごく高いと思うんです。私は退職する前は「英語？絶対しない」という想いがあったからですね。希望としてはそれをしていただくと子どもたちにとっても、とても良いと思いますけど。

○町長（岡崎邦博）

そういう仕組みなりできれば、そこに費用を抵当するという事は可能だと思います。

○野中委員

それはもう、絶対いいと思います。先生方も読んでいただくとかしたら助かるからですね。あ～素晴らしい発音だ、（英語が堪能な人に）読んでいただいたら私の発音よりずっといいよね、という感じになってくるからですね。連携という難しい部分はあるけれども、子どものことを考えれば少しでも本物に近いものに触れていく、と。芸術と一緒にだと思えますよ。

○町長（岡崎邦博）

仕組みなんなり、そういったものを整えていただいて、あとの費用の面はこちらで見る、ということになるんでしょうけれど。

○総務課長（三戸公則）

今2名いらっしゃるALTの増員というのは？当然人件費というか、費用は増えるとは思いますが。

○教育長（栗田ゆかり）

教育委員会としては当初、3名来ていただけるとありがたいという思いでした。

○総務課長（三戸公則）

ALTは、ほぼ全額交付税措置があります。ひとり約500万円くらいあります。ただ、結局そういう方が鞍手町に優先的にというか、配置されるかが課題ですね。

○教育長（栗田ゆかり）

鞍手はブリティッシュイングリッシュ、そういった方ばかり来ていただけるので、英語の発音がとても正確で、家庭的にもしっかりされた方がずっと前から伝統的に来ていただいている。

そのなかでもそういうブリティッシュイングリッシュの人を。ハワイの方とかですね。ハイチの方とかいろいろ居るんですよ。オーストラリア…オーストラリアは違うね。全然発音が違うからですね。アメリカとも違う。ここはブリティッシュイングリッシュ…どちらかというといギリスでしょうね。あの方たちみんなイギリスですしね。

○町長（岡崎邦博）

そうですね、3人でしてもらえるなら、そしてそれがすべて交付税措置で措置されるのなら、そちらのほうが良いのかなとも思いますが。

○学校教育係長（森永健一）

一応希望調査は毎年あるので、そこで出して、あとは派遣をしてもらえるかどうかということだと思います。

○野中委員

下りてくるのは北九州で何名ということですか？それとも鞍手できますか？北九州事務所管内で何名と言われると取られてしまう可能性がある。

○学校教育係長（森永健一）

町です。町からの申請で派遣のジェットというところで。

○木月委員

一生懸命やってるといって一生懸命さを見せないといけないんですよね。ぜひお願いしたいですね。

○町長（岡崎邦博）

あとは、市民劇団や吹奏楽団のことなんですが。

○教育長（栗田ゆかり）

それから、南中を中心とした南陵塾、あそこも青年の方が結構おられる。

○町長（岡崎邦博）

南陵塾の方とも昨日お話をしたんですけれども、今のところは南陵塾はシティプロモーションの支援事業という形で支援はしてるんですけれども、それは活動範囲からすると、3年でずっと減っていく補助金なので、今度は3年目でわずかということになるんですよね。それで、活動状況から見ればもう少し支援が出来ればいいなどは個人的には思うんですけれども、今上限なり要項なりが整備されてない状況なので現在は出すにも出せないようなところがあります。それで、南陵塾だけではなくそのシティプロモーションにはほかの事業も関わってくるんですが、それ以外にもっと幅広くウイングを広げて鞍手町で活発に活動している方たちがあれば支援できるような仕組みがあればいいなと思います。その中の一つとして吹奏楽団であったり市民楽団であったり市民劇団であったりするんですけれども、それについては31年度というなかなか難しいところなんですけれども、あと一年くらいはかけて調査なり研究はしていきたいなとは思っています。

○堀角委員

実際に吹奏楽団として活動している団体があるんですか？

○町長（岡崎邦博）

今現在、鞍手町にはないです。直方だとか宮若だとか近隣のところはもちろんあるんですけれども、鞍手町には今現在無いんです。

○木月委員

役場にも何人か吹奏楽部だった人が居ると思うんですよね。手前味噌で恐縮なんですけど、第九のコンサートがあるんですが、そこに所属しているのはその職員さんですか？交響楽団に所属されています。南陵…吹奏楽の子が卒業して、宮若市もそれに所属してるんですよ。そしてこれを合体してやるんですけどね。私も小さい時から知ってる子たちだったものだから、というのはあったんですよ。そういう子たちが主になってやっていると、規模的にはかなりあるんですよね。卒業して離れるからですね。

○町長（岡崎邦博）

でも、かなりまだ残っている子どもたちもいるですよ。で、宮若市の職員たちが中心になってやっているということもあるんですよ。

○木月委員

その一番上の、六が岳？私はこれをよく知らないんですけど、お神楽。伝統芸能の。今度その舞台を一緒にするんですよ。さっきからおっしゃている伝統芸能というのはやっぱりそういうのが残っているというのが、やはりそれを絶やさないように町で盛り上げている。そしてその一部しか分からないからですね、私たちは。そういうことかなと思って聞いてみました。

○町長（岡崎邦博）

それこそ、神楽もそうですけど各地で伝統芸能を残そうという動きが結構あるんですね。

○木月委員

それを子どもたちにさせてるということですよ？小中学生とか。ちょうど伝統芸能とか出てきたので、聞きました。今度の12月のその時に鞍手からそういう方が出演されるんですよ。

○町長（岡崎邦博）

見に行こうと思っています。日程がちょっとはつきりしないんですけど。

私のほうでは教育についてはこういう思いで実現したいと思っています。教育委員のみなさまにもいろんな思いがあると思いますので、その都度その都度というのはこういった総合会議というのを、今までは年に1度だったという話を聞いていますが年に数回開き、お互いの考え方を共有していくほうが良いのか。そのあたりについても庁の行政と教育行政、特に古後課長と三戸課長の中で協議してもらいながら今後について話していかなければならないと思っています。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。冒頭で1時間というふうに話をさせていただきまして、その時間を過ぎました。本日は岡崎町長が就任されまして教育行政について町長のいろいろな思いを本日は語っていただきました。そしてその考えについて各委員さんのほうからも考え・ご意見をいただいて有意義な会議であったと思います。議題1についてはこちらで終わらせていただきたいと思います。その他で2の項目がありますが、それについて連絡事項がありますか？その他のほうもございませんので、平成30年度の第2回鞍手町総合教育会議を以上を持ちまして終了させていただきたいと思

います。本日は大変お忙しいところありがとうございました。